

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893100087		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム川西東多田		
所在地	川西市東多田1-17-13		
自己評価作成日	令和2年1月18日	評価結果市町村受理日	例話2年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	例話2年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の行事(お祭り、保育所の行事など)にご入居者、スタッフともに参加し交流を図っている。年間を通じて季節ごとの行事をホームで開催、ご家族様の参加を積極的に呼びかけ、多数参加いただいている。提供する料理・おやつについて質の改善を図っており、また月に一度は仕出しを取るなど食の楽しさを提供できるよう努めている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員も定着してきて職員同士の風通しも良く、笑顔を絶やさない・言葉づかいに留意したサービスを心掛け、家族からの信頼を得ている。家族は運営推進会議に毎回数人の参加があり、家族意見を踏まえて家族懇談会を実施する等、家族との連携協力を活発に図っている。地域の行事に積極的に参加し、又事業所行事の実施の際は、自治会に案内状を送り参加願う等積極的に交流して、地域の一員としての座を確保している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員にクレドを配布し、朝礼で唱和を行い理念の共有をしている。	ホーム理念を掲示して、朝礼で唱和を行い理解に努め、共有して実践に努めている。笑顔絶やらず丁寧な言葉づかいを基本としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事にご利用者と一緒に参加したり、スタッフが地区のお祭りに参加したり交流を図っている。	地域の行事にも積極的に参加し、事業所の行事も案内状をお渡しして、積極的に交流している。近くの保育所とは散歩の都度声を掛け合う間柄である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時、認知症の方の家族からの相談、当ホームの見学、近隣に住む認知症の方の対応を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、地域包括の職員、民生委員、自治会長、ご家族に参加いただき、ホームでの取り組みなど報告、ご家族の要望や意見交換の場としている。	地域包括の職員や民生委員・家族(3人位)の参加をいただき、偶数月に定例開催している。家族からの発言も多く、要望により家族だけの会合を開催した。継続開催の希望がある。自治会代表の定例参加が望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な訪問および、地域包括を通じて情報交換している。	地域包括を通じての情報交換に留まっている。出来たら外出する機会に定例的に役所を訪問し、事業所の運営状況や、GHを取り巻く社会の動向等情報交換し、協力関係を築くよう望みたい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束に関する勉強会をホーム内で行い職員の理解を深めている。またアンケートを定期的に実施し共有、日頃のケアを振り返る機会としている。	年間計画に基づき研修を行い理解促進に努めている。定期的に全職員個々にチェック表に基づくアンケートを行い、全員で振り返っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待に関する勉強会をホーム内で行い職員の理解を深めている。またアンケートを実施し共有し、日頃のケアを振り返る機会としている。	身体拘束防止と同様研修計画に基づき、定期的に勉強会を行い振り返っている。又日々の行動の中で虐待が見過ごされないよう注意し合っている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて個別に職員に説明している。	現利用者には制度利用者はいない。昨年管理者が交代してから、制度に関する理解が進んでいない。	少なくとも管理者は制度の理解を得るため、地域包括や市役所担当課を訪ね、資料を入手して理解に努めると共に、近隣に相談できる専門家がいなければ行動を起こしてほしい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に良く話し合い、ご家族の疑問や質問に答えている。また重要事項説明書を用意し十分な時間をかけて説明を行い、その後契約書を交わしている。	入所前に利用者本人・家族に重要事項説明書を中心に説明しサインを頂いている。利用料金や支払いの方法、重度化した場合の対応等丁寧に説明し、理解・納得を図っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族がホームに来られた時に要望を聞くようにしている。また年1回お客様アンケートを本社企画で行い、その結果により改善に取り組んでいる。	運営推進会議での要望により、昨秋家族だけの懇談会を開催した。継続したい希望が有り声掛けしたい。本社企画のアンケートでも意見・要望を聞き、反映に努めている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる全体会議、各フロアのユニット会議において職員に発言の機会を与え自身の意見や提案を述べてもらい、改善に取り組んでいる。	毎月の全体会議、フロア一会議では、職員全員が発言できるよう促している。日頃の業務の最中でも声掛けを行い、職員との関係づくりに努め信頼関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度により、その職員の能力や実績に応じて段位が与えられ、給与にも反映される。また有給取得するよう積極的に促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時に認知症ケア、身体拘束・虐待防止の研修をオリエンテーションのなかで実施している。また月1回ホーム内で勉強会を開催している。外部の研修(実務者研修、認知症ケア実践者研修など)に職員の参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年1回本社企画で事例研究発表会を開催し、他ホームでの取り組みを共有するとともに、職員の交流を図っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と話す機会を設け、要望を聞き、不安軽減に努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを聴き、ホームでの生活について説明を行い、入居後の家族様の役割について話し合っている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族様と面談を行い、情報収集をし、入居後のご本人の様子をスタッフで共有、ご家族に報告しケアプランに反映している。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事などをご入居者と職員と一緒にいき、また食事を共にすることで実感していただいている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内での催事、ご利用者の誕生日会などをご家族に案内、参加を促し、ご本人とご家族が触れ合う機会を多く作っている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の方や友人知人がホームに訪ねて来られたら積極的に受け入れている。散歩のときにご自宅や近隣を歩くようにしている。	知人の方の訪問があり、繋がりが途切れないように支援している。お正月やお盆には自宅への外出・外泊をされている方もおられる。散歩時に自宅や近隣を歩いたり、馴染のスーパーに買い物にかけている。以前からの美容院を継続して利用されている方もおられる。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	催事への参加や家事を一緒にして頂くことでご利用者同士の支え会える関係作りに努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一度退去されても、再入居される方もいらっしゃるなど、退去されても関係を築くように、連絡を行う様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者ごとにケアスタッフの中からケア担当者を配置し、個別ケアに努めている。また就寝や起床の時間は可能な限りご本人の希望に添える様に努めている。	利用者ごとにケア担当者を決め、思いや暮らし方の希望を把握する等個別ケアに努めている。ケア担当が毎月家族に様子をお知らせしている「ホーム便り」を全職員が読むことにより情報を共有している。起床時間、就寝時間も出来る限り本人の希望に合わせている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から生活歴、趣味、好みなどを聞き、その人らしい生活が送れるよう支援している。居室に置かれる家具や雑貨、衣類などは出来る限り今まで使っていたものを持参していただいている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活の様子を記録して、申し送り共有している。またユニット会議においてご利用者個別の状態、生活上の問題点を話し合っている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは3ヶ月に1回見直している。カンファにおいて課題についてスタッフと話し合い、ご家族の希望・要望を定期的に伺い新しいプランに反映している。	3ヶ月に1回見直しを行っている。面会時等で家族の意見や要望を伺い、フロアー会議で出された意見等を集約して介護計画を作成している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤したスタッフに対して申し送りを必ず行い、併せて介護記録、ケア日報、ヒヤリハット、連絡ノートを活用し、スタッフ同士で情報の共有を行い、カンファに活用している。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉用具の取り入れ、訪問マッサージ、ボランティアを利用している。病院受診時は必要に応じてご家族だけでなく職員も同行している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーでの買い物、保育所の行事への参加など近隣の地域資源を活用し、楽しい暮らしを支援している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入所時にご本人、ご家族と相談し決めており、継続利用の希望があればそれを支援している。	入居時にかかりつけ医について、本人・家族と相談して決めている。現在は全員協力医療機関の医師がかかりつけ医となっており月2回の往診がある。希望により歯科医の往診が週1回ある。その他の受診は家族にお願いしているが、必要に応じて職員も同行することがある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居者の健康上の相談、報告、業務の依頼は電話や口頭で行い、ケア日報、連絡ノートも活用している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間中は、定期的に面会に出向き、ドクターカンファに出席している。またご家族、相談員、地医連との情報交換に努め信頼関係の構築に努めている。	入院中は、面会に行き、医師から容態を聞くようにしている。また、家族、相談員、医療連携室との情報交換に努め、早期退院に向けて支援している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合の対応や、看取り介護の指針について文書をもとに説明、同意を得ている。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針書・看取り介護にかかる指針書」を基に説明、同意を得ている。重度化した場合は、家族・医師と相談・連携して支援に努めている。お一人の方の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員に訓練は行えていないが、個別に教育は行っている。また事故・急変時の対応を事務室に掲示している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年2回行っている。災害時の水、食料、必要備品は3日分備蓄してある。地域住民と交流を持っているが、協力体制は築いている段階。	消防署立ち合いの下、夜間と昼間を想定した消防訓練をしている。防災マニュアル(火災と地震)を作成している。災害時の3日分の水、食料の備蓄をしている。災害時における地域との協力体制は日頃の地域交流を通して構築している段階である。	既にある火災と地震に対するマニュアルに加え、最近全国的に頻繁に発生している豪雨災害に備えて水害マニュアルを作成されることを期待します。又、運営推進会議に自治会代表に参加して頂く等して災害時における地域との協力体制を築かれることを期待します。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	クレドに介護理念が謳ってあり、毎朝朝礼で唱和し職員に意識づけを行っている。またプライバシーに関しても全体会議などで触れ、職員の理解を深めている。	理念の基本精神「一人ひとりの人格の尊重」を職員が共有し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。トイレ誘導の仕方や部屋のノック等を申し合わせ、会議でも話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の表情や言動を観察し、会話に努めご自身の希望や思いを聞き出せる機会をつくるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の生活リズムを把握し、それに応じたケアを提供している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択ができる方に関しては選択していただく。月1回訪問理美容があり、髪を整えてもらっている。希望者があれば毛染めも行っている。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理はホーム内で調理担当が行い、ご利用者に手伝ってもらっている。食事は職員と一緒にフロアで召し上がっている。食器洗いもご利用者に手伝ってもらっている。	本社で作成されたメニューで調理専門の職員が作っている。利用者と職員と一緒に食事をし、後片付けもして頂いている。行事(節分・クリスマス会・お誕生会、花見等)で特別メニュー(手巻きずし・ケーキ・仕出し弁当等)を楽しんでいる。家族には交流会で利用者と同じメニューで試食して頂いた。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の記録を行い、状態を把握している。必要があれば食事の形態、飲み物の種類などその方に合わせて対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛け、介助を行っている。週に1回、訪問歯科診療があり口腔ケアを受けておられる。			

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者の排泄パターンを把握し、それに応じた声掛け、トイレ誘導を行っている。	個々人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、乳製品を取って頂き、散歩や体操を行い腸内活動の活性化を図っている。主治医の指示のもと下剤による排便コントロールを行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2~3回入浴していただいている。基本は午後に入浴介助を行っているが、ご利用者の気分や状況によって午前中に行う、入浴拒否のある方はご家族の協力を得るなどし楽しい入浴を心掛けている。	週に2~3回、午後入浴となっている。一人ひとりで湯を交換している。入浴を嫌がる方にはその方の気持ちに沿った入浴が出来るように声掛け・時間・担当等を考慮しながら入浴してもらっている。家族には毎月のお便りで入浴された日を知らせている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床は本人様の生活リズムに合わせる様に努めている。居室の温度管理、衣類、布団など季節に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援時に、職員二人でお名前、日付、時間、錠数を確認している。各ご利用者の嚥下状態に合わせて細粒、ジャムに混ぜて服用するなどしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や盛り付けの手伝い、洗濯物たたみ、床のモップかけ、居室の掃除、食器洗い、植物の水遣りなどスタッフの支援のもと行ってもらっている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	午前中、散歩の時間を設けている。歩行出来ない方も日光浴をするなど支援している。近隣のスーパーなどに買い物に出かけるなどしている。	日常的に散歩や近くのスーパーへ買い物に出掛けている。歩行が困難な方には日光浴をする等して外気に当たって頂いている。初詣、花見や紅葉狩りはユニット毎に出掛けている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解のもと、ホーム内で財布を所持されているご利用者がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状など出したいご利用者がおられたら出せる様に支援している。ご本人、ご家族の希望で携帯電話を持たれている方がいる。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングなどの共用部分に毎月、季節ごとの装飾を行なっている。トイレや風呂場に場所がわかるよう表札を貼っている。ご利用者の各居室にもお名前を掲示している。	1階の玄関に洗面所が設けられ、手洗い・うがいが出来る。風呂入口には暖簾がかけられ、更衣所は木製の長ベンチが設置されている。居間兼食堂は明るく、山々の自然が見渡せる。居間や廊下には季節感を取り入れた壁面飾りや利用者の作品(書道等)、行事での写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内にソファを設置し、自由に使える様にしている。玄関近くにもベンチがあり、一人になりたい方はそこで過ごすことがある。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までと変わらない生活をして頂く為、自宅の家具や備品、写真などを持って来ていただけよう入居時に説明し、実行している。	馴染の家具や思い出の品を持参して頂いて、今迄の生活が継続されるような居室作りに努めている。カーテン・椅子等も好みの物が設置され個性的な居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、トイレ、浴室などに表札を掲示し、ホーム内は自由に移動できる環境を整えている。		

基本情報

事業所番号	2893100087
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社
事業所名	愛の家グループホーム川西東多田
所在地	〒666-0122 兵庫県川西市東多田1丁目17-13 (電話)072-790-2600

【情報提供票より】令和2年1月18日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 24 年 5 月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 名
職員数	19 名	常勤 14名 非常勤 5名 常勤換算	名

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り 2階建ての1・2階部分
------	----------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	管理費 14,400円	
敷 金	有 200,000 円	光熱水費 21,600 円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1, 620円			

(4)利用者の概要(令和2年1月18日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 92.6 歳	最低	78 歳	最高	102 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人協和会 協立病院 医療法人万寿会 おおたクリニック 医療法人伸明会 夕日丘デンタルクリニック
---------	--

(様式2(1))

事業所名 愛の家グループホーム川西東多田

目標達成計画

作成日 令和2年4月20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	8	権利擁護に関する制度の理解が不十分である。	スタッフ一人一人が権利擁護の意義、具体的な制度について、理解を深める。	スタッフの教育のための資料を作成し、勉強会を開催し理解を深める。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(様式2(2))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="checkbox"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="checkbox"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="checkbox"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="checkbox"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="checkbox"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="checkbox"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="checkbox"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="checkbox"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()